国際ロータリー 第 2780 地区 第9グループ

湯河原ロータリークラブ 週 報

2022年12月23日(金) 第2902回例会 形式:対面 天候:晴れ
合唱:それでこそロータリー

会 長 青木 義美　幹 事 室伏 学

事務所:神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会
TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716 例会場:ニューウェルシティ湯河原 例会日:毎週金曜日 12:30～13:30

会長挨拶

青木 義美

私が会長拝命させて頂いて丁度半年です。今日は今年最後の例会となってしまいました。とりあえずここまで来れたのも室伏幹事以下皆様の応援があればこそだと感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、我が家の年末行事の中に毎年出させて頂いている恒例の年賀状があります。私は公私共々約500通くらい書きますが、年齢と共に年賀廃止の友人も多く、受信は300通くらいでしょうか。例年受け取られている方はご存じかと思いますが、旅行でのラブラブ写真ですから、受け取る友人から家庭内崩壊につながるから出さないでくれという友人もいます。それもご丁寧に必ず元旦に届くよう投函してますので、人によっては正月から地獄ですね。そんな迷惑顧みずしっかり出させて頂きますので、迷惑だと思われる方はどうぞ正月早々ポスト前で郵便屋をお待ちいただいて、外して頂くようお願い致します。500枚全ての方に必ず一言添えてますので、10日間はかかっております。今年は皆さんも同じでしょうが、海外どころか国内旅行もままならずで写真ネタがなく、先月の四国旅行を題材にしました。

家庭内崩壊年賀を楽しみにしていて下さい。

又来年は新会員増強も是非やってみようと思っております。ご協力宜しくお願いします。

出席報告

会員	23	名	出席率	85.71	%
欠席	5	名	前回の修正出席率	75.00	%
(免除者	2	名)	前々回の修正出席率	80.95	%
ゲスト	0	名	事前メークアップ	0	名
ビジター	0	名			

幹事報告

ガバナーより

1.国際ロータリー第 2780 地区2025～2026年度ガバナー・ノミニー確定宣言

伊勢原ロータリークラブの松下孝会員が、2025～2026年度ガバナーノミニーに確定したことを茲に宣言致します。

連絡事項

なし

スマイル Box

石川浩子君

石田さん、室伏さんよりご依頼を受けて有志忘年会にスタッフをお手配させていただきました。ありがとうございます。

クリスマスケーキを頂いたので全員でスマイル。

2022年最終例会なので全員でスマイル。

卓話

西山 敦 君

皆様こんにちは。今回は新年を迎えるにあたっての神まつりについてお話しいたします。

令和4年も残すところ1週間余りとなり、新年を迎える準備も始めなければならない時期となりました。今日は暮れから正月を向かえるための準備や神祀りのことについてお話しします。前回、前々回の卓話でもお話ししていますが、実行している方は確認し、まだの方は参考にしていただけたらと思います。

・注連縄の準備について

注連縄(しめなわ:七五三縄、占縄、標縄とも書く)は、神域を表したり、内外を区画したり、人や悪霊の侵入を防いだりする

ために張り巡らして用いる縄です。神棚に張るごぼう締めは、太い方を右側にし、シメを4枚つけます。一般的に神前に使う縄等は左ない（藁をよった溝が N の斜め線と同方向になっている）とします。シメ（四手）の切り方は、①半紙を半分に切る ②それを半分に折る ③折り目を上にする ④横を四等分する ⑤交互に3分の2ほど切り込みを入れる、です。

・神棚のまつり方

続いて神棚の向きや場所について説明します。神棚の向きは南か東向き（仏壇は神棚より低くして東向き）、場所は一家の中心になる神聖な所ですから、あまり下も上も通らない所で、清浄で静かな高い所、同時に家族にとって親しみやすい明るいところ、毎日お供えしたり拝むのに都合の良い所、がそれぞれ良いとされます。

神棚を神聖な場所として表すために、注連縄を用います。飾る際、ごぼう締めは編み始め（太い方）が向かって右（上位、神座から見て左側）になるように飾ります。神垂・シメは通常は4枚、または偶数枚を飾ります。続いて雲板（雲の形をしたもの。神棚の上を人が通る場合は、半紙に墨で雲と書いて天井に張る、あるいは神棚の上にもう一枚天井を張っても良い）、神札（おふだ：神宮の大麻・氏神様の神札（神璽（しるし）を遙拝）、神饌（しんせん：米・塩・水は毎日、加えて一日と十五日は神酒をはじめ台数を多くする。到来ものはその都度）をお祀りします。なお神札は三社造り（扉が三つ）の場合と一つの場合で異なり、神饌には「米、神酒、魚、乾物、野菜、果物、塩、水」の順位の通りに「神座に近い正面→左側（向かって右）→右側（向かって左）→以降、手前も同様」とします。

最後に喪中（家族が亡くなりお葬式を出す場合）のとき、ただちに神棚のお祀りを中断します。一般に、神棚の前に家族以外の人に半紙を張ってもらい、毎日のお祀りを中止し、亡くなった方の霊魂をまつることに専念します。親が亡くなったとき、昔は一年間慎み喪に服しましたが、現在は五十日祭が済んで忌明けとなったときに神棚のお祀りを再開します。この際、半紙を除き、神札を神棚に納めます。

・七五三について

七五三は十一月十五日、五代将軍徳川綱吉の病弱であった長男徳松の健康を祈った儀式が起源といわれています。数え年で三歳（男女とも）、五歳（男子）、七歳（女子、いずれも満年齢で行うことも多い）になる子どもの成長を祝う儀式として定着しています。もともとは武家や宮中で行われていた髪置（かつては男女とも生後七日目に頭髪を剃り、三歳頃までは丸坊主で育てる平安時代の風習にて、三歳の春を迎え、髪を結い直すための儀式）、袴着（男子が五歳になって初めて袴と小袖を着用し、手に扇を持つ儀式）、碁盤（右手に扇、左手に松と藪柑子を持ち、碁盤の上から南の方へ飛び降りる儀式。皇室では袴着に続き、碁盤から飛び降りる「深會木の儀」が行われる）、帯解き（七歳前の女の子が来ていた付紐の着物をやめ、この日から本式の帯を締めるようになる儀式）という、年齢にともなった通過儀礼に由来するとされ、一般には江戸時代、関西には昭和時代になってから広まったとされています。

・厄年と大祓い

厄年は、人間の一生のなかの災厄が起こりやすい時期として忌み慎まれた特別の年です。厄年の年齢は数え年で数えます。普通、男性は25、42、61歳、女性は19、33、37歳を厄年として慎まなければならないとされています。この年が本厄でこの前後年を前厄、後厄といい、前厄から後厄に至る3年間は用心して過ごさなければならないとされています。

厄除けとして、六月の晦日に行われる「夏越の大祓」は、半年の間に身についた穢れを祓い落とす行事で、残り半年の無病息災を祈願します。日々の暮らしの中で、私達はさまざまな罪を犯しています。物を粗末に扱ったり、神仏を敬わなかったり、よこしまな考えを抱いたり、そんな罪を犯すたびにそれは穢（けがれ）となって、その身につき、やがては疫病や思わぬ災難という形をとって我が身に返ってくると考えました。そして、穢れが禍（わざわい）の形を取る前に、穢れを祓い清める必要があると考え、穢れを祓う「大祓い」という行事を行うようになりました。さらに半年後の十二月末の「年越しの大祓い」ともに厄落としの方法として「茅の輪くぐり」が行われています。茅の輪くぐりについては日本神話の素戔嗚命（すさのおのみこと）に旅の宿を提供して難儀を救ったと云われる、蘇民将来が素戔嗚命の教えに従って腰に茅の輪を下げたところ、子孫代々に至るまで災いなく栄えたと云う故事にちなんでいます。五所神社では大祓いと茅の輪くぐりを12月31日午後3時より行います。

・古い神札やお飾りについて

境内には古い神札やお飾りは納める箱があります。令和5年は1月14日にどんど焼きが行われます関係から、13日夕刻までにお納めください。

本日はありがとうございました。

（文・編集：常盤孝司（12月会報担当）／クラブ会報委員会）